

科目名称：	イラストレーション演習	
担当者名：	新井 浩、大谷 友理、大場 新之助、権田 宜子、東田 修一、堀 一浩、本山 二郎、和田 紘樹	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
美術を学ぶには多くの分野があり、その表現技法は多種多様である。この授業では、美術学科の専門科目以外のイラストレーションについていろいろな素材を活用して描く授業が展開する。演習課題から知識や技法を得ることで、表現の可能性を広げ、制作する作品の表現手段・材料やアイデアを蓄積し生かしていくことが目的である。		
授業の達成目標・到達目標		
授業では様々な道具や画材を使って描くことが中心であり、担当教員からテーマをもとにした課題が毎回出され、そこで学んだ知識・技法を深く理解し、実習をとおして授業時間内でどのくらい表現できるかを目標とする。仕上がった作品については各回でファイリングして自分の取り組んできた足跡を残し、1年後期のポートフォリオにまとめられるようにつなげていく。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	ルーブリック	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)					0
美術DP(3)					0
美術DP(4)			65	35	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》権田宜子/加賀友禅染色工房（有）千紅	《経験年数1》8年
	《内容2》大谷友里/デザイナー、アートディレクター、イラストレーター、Webデザイナー	《経験年数2》17年
	《内容3》新井 浩/デザイナー、イラストレーター	《経験年数3》11年
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解	イラストレーションについて良く学び、よく理解することができる	イラストレーションについて良く学んだが、少し理解することがで	イラストレーションのことは知っているが、理解までは至っていない	イラストレーションのことをあまり知らない
表現力	様々な画材や道具の表現について、理解できたので使ってみたい	様々な画材や道具の表現について、良く理解できる	様々な画材や道具の表現について、少し理解できる	様々な画材や道具の表現について、あまり理解できていない
知識	イラストレーションの種類や技法を知り、さらに検索し調べた	イラストレーションの種類や技法を知り、他にもさらに学びたいと思う	イラストレーションの種類や技法を知っていても使ったことがない	イラストレーションの種類や技法をまったく知らない
意欲	イラストレーションについてさらに追求し、技術を身につけたい	イラストレーションについてさらに追求したい	イラストレーションについて興味がある	イラストレーションは難しいと思う

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 イラストレーションとは／権田	イラストレーションとは何か、どのようなものであるのかを調べしておく	40分
第2回 ゆるいイラストレーション／東田	頭と手の柔軟体操をしておく	40分
第3回 コラージュ／大場	コラージュについて調べ、事前に素材を準備しておく	40分
第4回 ボディペインティング①／大谷 2人1組のグループワークで、体の一部にアート作品を施す。描写力、コミュニケーション能力、画材研究、撮影技術について学ぶ。	人体にペイントした作品を調べておく	40分
第5回 ボディペインティング②／大谷 2人1組のグループワークで、体の一部にアート作品を施す。描写力、コミュニケーション能力、画材研究、撮影技術について学ぶ。	人体にペイントした作品を調べておく	40分
第6回 写真①／和田	スマホの様々な写真操作ができるようにしておく	40分
第7回 写真②／和田	スマホの様々な写真操作ができるようにしておく	40分
第8回 切り絵①／堀	切り絵作品について調べておく	40分
第9回 切り絵②／堀	切り絵作品について調べておく	40分
第10回 水彩画①(にじみ・ぼかしを活かす)／新井	水彩画やスケッチの作品を見て、にじみやぼかしの技法について調べておく	40分
第11回 水彩画②(にじみ・ぼかしを活かす)／新井	水彩画やスケッチの作品を見て、にじみやぼかしの技法について調べておく	40分
第12回 プロの仕事から学ぶ／雨柳堂先生	現役のイラストレーターからプロの仕事が使う技法・画材について学ぶ	40分
第13回 フロッタージュ・イラストレーション①／本山	フロッタージュを使った作品について調べておく	40分
第14回 フロッタージュ・イラストレーション②／本山	フロッタージュを使った作品について調べておく	40分
第15回 イラストレーション課題のプレゼンテーション／権田	これまで学んだ画材から選択し、そこから展開したものを課題としてまとめ提出する	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
課題作品 65% (演習は13回あり、1回で1課題は5点満点/2回連続で1課題は10点満点)、授業への熱意・関心度 35%

課題に対するフィードバック

各回の課題について、学生に作品をフィードバックし、指導教員からの評価された点をもとに今後の制作に活用する。

教科書・参考書

特になし